



杉の低温乾燥材で受賞

ポラスグループなど

ポラスグループの中央住宅（埼玉県越谷市、品川典久社長）、全国森林組合連合会、東京大学大学院薬学系研究所、モリアンの4者共

同による国産杉パネル「スギノカ」のコラボ開発プロジェクト「低温乾燥による国産杉材の付加価値向上プロジェクト」が、ウッドデザイン賞2019林野庁長官賞を受賞した。

スギノカは、杉の赤身部分を精油成分の多い部材、木の持つ特徴的な表情という価値あるものとして捉え、国産材の積極活用につなげる意図で開発された建材。

中央住宅は、モリアンと協議を重ね、豊かな芳香と美しい木目の表情を併せ持つ3種類の表面加工パターンをデザインした。ポイントは、白太と赤身のバランスによる意匠性と芳香感、厚みのコントロールや加工性による低コスト化にある。

杉板の表面積を広くし、導管を露出させることで効率的に香りを引き出し、凸凹のあるデザインで光の陰影をつくることができる。裏面にもスリットを入れ、空気の流れる場所をつくり、変形を防止する。

低温乾燥することで精油成分を残した建材として開発した。